

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2005-84522
(P2005-84522A)

(43) 公開日 平成17年3月31日(2005.3.31)

(51) Int.Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
GO2B 27/02	GO2B 27/02	Z 2H042
GO2B 5/04	GO2B 5/04	D 2H087
GO2B 17/02	GO2B 5/04	F 2H099
GO2B 27/28	GO2B 17/02	
	GO2B 27/28	Z
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 19 頁)		

(21) 出願番号	特願2003-318507 (P2003-318507)	(71) 出願人	000004112
(22) 出願日	平成15年9月10日 (2003. 9. 10)		株式会社ニコン
			東京都千代田区丸の内3丁目2番3号
		(74) 代理人	100072718
			弁理士 古谷 史旺
		(72) 発明者	堀 健治
			東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株
			式会社ニコン内
		Fターム(参考)	2H042 CA06 CA12 CA17 DA01 DA08
			DB02
			2H087 KA20 RA41 RA46 TA00 TA02
			2H099 AA11 BA17 CA02 CA07

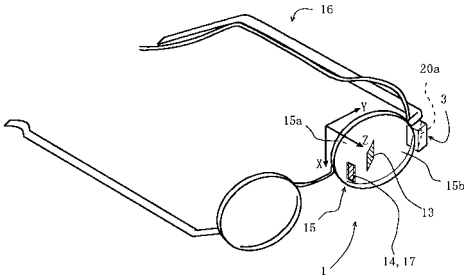
(54) 【発明の名称】 コンバイナ光学系

(57) 【要約】

【課題】 薄化可能な構成のコンバイナ光学系を提供する。

【解決手段】 画像表示面（20a）から導入される表示光束の光路を内部に形成する透明基板（15）と、前記基板内に形成される前記光路中に挿入され、前記表示光束の少なくとも1部を透過するビームスプリッタ（13）と、前記ビームスプリッタを透過した前記表示光束に対し光学的パワーを付与すると共に、その表示光束が前記ビームスプリッタに再入射する方向にその表示光束を反射する主反射面（17）とを備える。前記ビームスプリッタが前記基板の表面と成す角度は、20°以上かつ40°以下に設定される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

画像表示面から導入される表示光束の光路を内部に形成する透明基板と、
前記基板内に形成される前記光路中に挿入されたビームスプリッタと、
前記ビームスプリッタを透過した前記表示光束に対し光学的パワーを付与すると共に、
その表示光束が前記ビームスプリッタに再入射する方向にその表示光束を反射する主反射面とを備え、

前記ビームスプリッタが前記基板の表面と成す角度は、 20° 以上かつ 40° 以下である

ことを特徴とするコンバイナ光学系。

10

【請求項 2】

請求項 1 に記載のコンバイナ光学系において、

前記主反射面は、前記画像表示面の中心から射出した前記表示光束の主光線に対し垂直である

ことを特徴とするコンバイナ光学系。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 に記載のコンバイナ光学系において、

前記ビームスプリッタは、偏光ビームスプリッタであり、

前記ビームスプリッタと前記主反射面との間の前記表示光束の光路には、 $1/4$ 波長板が挿入される

ことを特徴とするコンバイナ光学系。

20

【請求項 4】

請求項 3 に記載のコンバイナ光学系において、

前記偏光ビームスプリッタは、前記表示光束の波長を選択波長とした反射波長選択性を有している

ことを特徴とするコンバイナ光学系。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のコンバイナ光学系において、

前記偏光ビームスプリッタは、反射型ホログラムからなる

ことを特徴とするコンバイナ光学系。

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、アイグラスディスプレイなどの携帯機器に搭載され、携帯機器内の画像表示面から射出した表示光束を外光に重畳させて使用者の眼に呈示するコンバイナ光学系に関する。

【背景技術】**【0002】**

アイグラスディスプレイ、ウェアラブルパーソナルコンピュータ、カメラ、その他の携帯機器のビューアに、コンバイナ光学系が用いられることがある（特許文献 1 のコンバイナ光学系など）。

40

コンバイナ光学系は、外界から入射する外光を透過すると共に、携帯機器内の画像表示面の虚像を使用者の眼の前方に形成するものである。

【0003】

その虚像の位置を安定させるため、コンバイナ光学系は、使用者の頭部に対し固定される（特許文献 1 の図 3 B 参照）。

また、その固定を容易にするため、コンバイナ光学系を構成する光学部材の材料や配置関係などに対し軽量化の工夫が施される。

しかも、特許文献 1 のコンバイナ光学系は、使用者の眼の近傍にビームスプリッタ（特許文献 1 の図 8 符号 360）、主反射面（特許文献 1 の図 8 符号 550）などが密集して

50

配置されているので、コンパクトでもある。

【特許文献1】米国特許6222677号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、コンバイナ光学系の姿勢（取り付け位置及び角度）を安定させるためには、軽量化するだけでなく、その形状を、使用者の眼に装着するのに適した形状にする必要もある。

このため、コンバイナ光学系の主要部を眼の大きさと同程度のサイズとし、しかも使用者の視軸の方向に薄化する（つまり、所謂眼鏡レンズの形状に近づける）ことが望ましい。実際、コンパクトさを犠牲にしても薄化した方が姿勢が安定し易いと考えられる。 10

【0005】

そこで本発明は、薄化可能な構成のコンバイナ光学系を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

請求項1に記載のコンバイナ光学系は、画像表示面から導入される表示光束の光路を内部に形成する透明基板と、前記基板内に形成される前記光路中に挿入されたビームスプリッタと、前記ビームスプリッタを透過した前記表示光束に対し光学的パワーを付与すると共に、その表示光束が前記ビームスプリッタに再入射する方向にその表示光束を反射する主反射面とを備え、前記ビームスプリッタが前記基板の表面と成す角度は、 20° 以上かつ 40° 以下であることを特徴とする。 20

【0007】

請求項2に記載のコンバイナ光学系は、請求項1に記載のコンバイナ光学系において、前記主反射面は、前記画像表示面の中心から射出した前記表示光束の主光線に対し垂直であることを特徴とする。

請求項3に記載のコンバイナ光学系は、請求項1又は請求項2に記載のコンバイナ光学系において、前記ビームスプリッタは、偏光ビームスプリッタであり、前記ビームスプリッタと前記主反射面との間の前記表示光束の光路には、 $1/4$ 波長板が挿入されることを特徴とする。

【0008】

請求項4に記載のコンバイナ光学系は、請求項3に記載のコンバイナ光学系において、前記偏光ビームスプリッタは、前記表示光束の波長を選択波長とした反射波長選択性を有していることを特徴とする。 30

請求項5に記載のコンバイナ光学系は、請求項4に記載のコンバイナ光学系において、前記偏光ビームスプリッタは、反射型ホログラムからなることを特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

このように、ビームスプリッタが基板の表面と成す角度が 40° 以下に抑えられれば、基板を薄化することができる。また、その角度が 20° 以上確保されれば、基板の内部に折線状の光路を適正に形成することができる。 40

すなわち、本発明によれば、薄化可能な構成のコンバイナ光学系が実現する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、図1、図2、図3を参照して本発明の実施形態について説明する。

本実施形態では、アイグラスディスプレイに搭載されるコンバイナ光学系1について説明する。

先ず、コンバイナ光学系1の構成を説明する。

アイグラスディスプレイの外観は、図1に示すとおりである。図1において符号1で示すのがコンバイナ光学系である。コンバイナ光学系1の断面の概略は図2に示すとおりである。 50

【 0 0 1 1 】

図 1 , 図 2 に示すように、コンバイナ光学系 1 は、アイグラスディスプレイにおいて光源ユニット 3 の画像表示面 2 0 a から射出した表示光束を使用者の眼の瞳の方向に導く。なお、図 1 中、符号 1 6 で示すのは、アイグラスディスプレイを使用者の頭部に装着するための装着具である。

図 1 , 図 2 中に示す右手系の X Y Z 座標の原点の位置が、使用者の瞳の中心の位置である。この瞳は、コンバイナ光学系 1 の射出瞳 (アイポイント E . P .) でもある。なお、図 1 , 図 2 に示すように X Y Z 座標系の Z 軸は使用者の眼の視軸方向、 Y 軸は使用者の左右方向、 X 軸は使用者の上下方向とした。

【 0 0 1 2 】

10

コンバイナ光学系 1 は、平行基板 1 5 を備える。また、その基板 1 5 内に、主反射面 1 7、偏光ビームスプリッタ (P B S) 1 3、及び 1 / 4 波長板 1 4などを備える。

基板 1 5 は、その外縁が眼鏡レンズようなサイズ及び形状に整えられており、使用者の眼に正対して配置される。

画像表示面 2 0 a は、使用者の眼から十分に離れた位置に配置される。画像表示面 2 0 a から射出する表示光束の波長は可視光の所定の波長に設定されており、表示光束の偏光方向は、予め p 偏光に整えられている。

【 0 0 1 3 】

基板 1 5 の材料は、少なくともこの所定波長の可視光に対し透明な材料からなる。軽量化のために、光学用樹脂の使用が望ましい。

20

画像表示面 2 0 a の各位置から発散する表示光束の角度範囲は、適度に制限されている。これは、例えば、画像表示面 2 0 a を照明する照明光として、予め十分にコリメート (平行光束化) されたものを使用することで実現できる。

【 0 0 1 4 】

P B S 1 3 は、使用者の眼の前方に傾斜した姿勢で設けられる。P B S 1 3 が基板 1 5 の使用者側の面 1 5 a 又は外界側の面 1 5 b と成す角度は、2 0 ° 以上かつ 4 0 ° 以下である。

P B S 1 3 は、前記所定波長を選択波長として反射し、かつそれ以外の波長の可視光を反射しないような反射波長選択性を有している。

【 0 0 1 5 】

30

画像表示面 2 0 a の配置位置及び配置角度は、画像表示面 2 0 a から射出した表示光束が基板 1 5 の使用者側の面 1 5 a 及び外界側の面 1 5 b にて交互に内面反射して折線状の光路を基板 1 5 内に形成し、かつその光路と P B S 1 3 との成す角度が適正値になるよう選定される。

基板 1 5 において画像表示面 2 0 a から射出した表示光束が最初に入射する領域 (境界面) 1 5 c は、光線の結像に対して非対称な要素が存在することを避けるため、画像表示面 2 0 a の中心から射出した表示光束の主光線に対し略垂直な平面となっている。

【 0 0 1 6 】

主反射面 1 7 は、P B S 1 3 を透過した表示光束を反射できる位置に設けられる。

主反射面 1 7 は、その表示光束に対し光学的パワーを付与するための曲率又は回折パターンを有している。

40

主反射面 1 7 の姿勢は、画像表示面 2 0 a の中心から射出した表示光束の主光線がその主反射面 1 7 に対し垂直に入射するような姿勢に設定される。

【 0 0 1 7 】

1 / 4 波長板 1 4 は、P B S 1 3 と主反射面 1 7 との間の表示光束の光路 (主反射面 1 7 のなるべく近く) に挿入される。

次に、このコンバイナ光学系 1 内の光の振る舞いについて説明する。

画像表示面 2 0 a から射出した p 偏光の表示光束は、基板 1 5 内を内面反射してから P B S 1 3 に入射し、P B S 1 3 を透過し、1 / 4 波長板 1 4 を通過し、主反射面 1 7 に入射する。主反射面 1 7 における反射により表示光束は平行光束に近づけられつつ、1 / 4

50

波長板 14 を再度通過し、P B S 13 に再入射する。

【0018】

1/4 波長板 14 を往復した表示光束は s 偏光となるので、P B S 13 に再入射した表示光束は、P B S 13 で反射される。また、表示光束の光路が P B S 13 と成す角度は適正值なので、P B S 13 で反射された表示光束は、使用者の眼の方向に進行し、平行光束に近い状態で眼の瞳に入射する。

よって、画像表示面 20 a の拡大虚像が P B S 13 の外界側に形成される。この状態で、使用者には、画像表示面 20 a が眼の前方にあるように見える。また、P B S 13 は外界から入射する外光の殆どを透過するので、観察者には、虚像と共に外界を見ることがもできる。

10

【0019】

次に、このコンバイナ光学系 1 の効果について説明する。

先ず、使用者の眼の視軸 (Z 軸) 上に配置される光学素子は、基板 15、基板 15 内の P B S のみであり、従来例よりも少ない。

しかも、その P B S 13 が基板 15 の使用者側の面 15 a 又は外界側の面 15 b と成す角度は 40° 以下であり、従来例のそれ (45°) よりも 5° 小さい。 5° 小さければ、基板 15 の使用者側の面 15 a と外界側の面 15 b との間隔は確実に狭められる。

【0020】

したがって、このコンバイナ光学系 1 の視軸方向 (Z 方向) の厚さは、従来例のそれよりも薄い。

20

また、P B S 13 と基板 15 の使用者側の面 15 a 又は外界側の面 15 b との成す角度が 20° 以上であるので、基板 15 の内部に折線状の光路は適正に形成される。つまり、基板 15 の使用者側の面 15 a 又は外界側の面 15 b のうち、表示光束を n 回目に反射する領域と、n + 1 回目に反射する領域とを独立させる (重複させない) ことができる。

【0021】

因みに、P B S 13 と基板 15 の使用者側の面 15 a 又は外界側の面 15 b との成す角度が 20° 未満であると、光路を適正に形成することが難しくなる。

また、画像表示面 20 a の各位置から発散する光束の角度範囲が適度に制限されているので、迷光が抑えられ、虚像の近傍に迷光によるゴーストが生起する、といった事態を避けることができる。

30

【0022】

また、主反射面 17 の姿勢は、画像表示面 20 a の中心から射出した表示光束の主光線がその主反射面 17 に対し垂直に入射するような姿勢に設定されるので、前記虚像の結像収差は最小に抑えられる。

また、P B S 13 は、反射波長選択性を有し、表示光束と異なる波長の光については全て透過するので、コンバイナ光学系 1 のシースルー性 (外光の透過性) は高い。

(その他)

なお、画像表示面 20 a の各位置から発散する光束の角度範囲を制限するために、照明光を使用するとしたが、その代わりにフィールドレンズを画像表示面 20 a の射出側に挿入してもよい。

40

【0023】

また、画像表示面 20 a には、LCD などの透過又は反射式の二次元画像表示素子、EL などの自発光式の二次元画像表示素子などが配置される。

また、画像表示面 20 a に直接二次元画像表示素子を配置せずに、二次元画像表示素子をリレー光学系により投影してできる中間像を配置してもよい。また、画像表示面 20 a 上に、光走査による二次元画像を形成してもよい。

【0024】

また、画像表示面 20 a の形状は、平面に限定されず、基板 15 の側に凸の球面であってもよい。

なお、基板 15 の境界面 15 c は、平面に限らず、凹又は凸の曲面であってもよい。各

50

種収差が抑えやすくなるような形状に最適化されることが望ましい。

また、画像表示面 20a と基板 15 との間に、追加レンズを挿入してもよい。追加レンズを挿入することにより、像面湾曲の制御、色収差の補正が容易となる。追加レンズは、基板 15 に接合されていても、基板 15 と分離されていてもよい。

【0025】

また、光量損失を許容するのであれば、PBS 13 に代えて BS (ビームスプリッタ) を備えると共に 1/4 波長板 14 を省略してもよい。このときには、表示光束を予め p 偏光に整える必要は無い。

また、上述した反射波長選択性を有した PBS 13 は、GBO (Giant Birefringent Optics) 膜からなる偏光分離膜、反射型ホログラムからなる偏光分離膜、光学多層膜からなる偏光分離膜、ワイヤーグリッド構造の偏光分離膜などによって実現できる。 10

【0026】

因みに、ホログラムからなる偏光分離膜の製造時、反射波長帯域を制御するために、照射光波長又は照射光角度を僅かにずらした多重露光を適用してもよい。

また、コンバイナ光学系 1 のシースルー性を高める必要が無いときには、PBS 13 に対し反射波長選択性を付与する必要は無い。反射波長選択性の無い PBS 13 は、アルミニウムなどからなる偏光分離膜によって容易に実現できる。

【0027】

また、主反射面 17 は、金属膜、誘電体膜、反射型ホログラムなどによって実現できる。 20

また、PBS 13 と主反射面 17 との位置関係については、図 2 に示すものの他、図 3 に示すようにしてもよい。

図 2 の主反射面 17 は、PBS 13 を透過した後に基板 15 の使用者側の面 15a にて一回反射した表示光束を反射するのに対し、図 3 の主反射面 17 は、PBS 13 を透過した表示光束を直接、反射する。

【0028】

また、主反射面 17 の形成位置は、基板 15 の内部に限らず、基板 15 の端面であってもよい。

【実施例 1】

【0029】

以下、本発明の第 1 実施例を示す。

本実施例のコンバイナ光学系の光路図は、図 4 のとおりである。なお、図 4 では、光路に作用しない面については一部省略してある。また、図 4 の各要素には、実施形態においてそれに対応する要素と同じ符号を付した (図 6, 図 8, 図 10, 図 12 においても同様。)。

【0030】

このコンバイナ光学系のデータは、表 1、表 2 のとおりである。

【0031】

【表 1】

仕様					
入射瞳径:3					
計算波長[nm]:544, 514, 484					
X方向画角[deg]:6.66~-6.66					
Y方向画角[deg]:-5~5					
射出瞳基準の虚像形成位置:-600					
各面のデータ					
面番号	曲率半径	屈折率[nd]	分散[ν d]	作用	
1:	INFINITY	1		屈折	←瞳
2:	INFINITY	1.59551	39.24	屈折	
3:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	←B S
4:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	
5:	-67.1	1.59551	39.24	反射	←主反射面
6:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	
7:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	
8:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	
9:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	
10:	INFINITY	1.59551	39.24	反射	
11:	INFINITY	1.59551	39.24	屈折	
12:	INFINITY	1			←画像表示面

10

20

30

【表 2】

各面の座標値と傾き角度[deg]						
面番号	X	Y	Z	A	B	C
1:	0	0	0	0	0	0
2:	0	0	13	0	0	0
3:	0	0	14.7	25	0	0
4:	0	-2.02598	13	0	0	0
5:	0	-3.78788	14.47841	-50	0	0
6:	0	-2.02598	13	0	0	0
7:	0	1.61273	16.05324	0	0	0
8:	0	5.25144	13	0	0	0
9:	0	8.89015	16.05324	0	0	0
10:	0	12.52886	13	0	0	0
11:	0	14.44397	14.60697	50	0	0
12:	0	18.55246	18.05439	50	0	0

10

20

なお、表 1，表 2 に示すデータの光線追跡の方向は、射出瞳（アイポイント E . P . ）から画像表示面 20a へ向かう方向とした。また、座標系は、射出瞳の中心に原点を有した右手系の X Y Z 座標を採用した。X Y Z 座標系の Z 軸は使用者の眼の視軸方向、Y 軸は使用者の左右方向、X 軸は使用者の上下方向である。また、表 1，表 2 中の数値の単位は、個別の指定のあるものを除き、長さは [mm] である。また、表 1 において、屈折率、分散は d 線に対する値である。また、表 2 において「X」は X 座標値、「Y」は Y 座標値、「Z」は Z 座標値、「A」は X 軸からの傾き角度、「B」は Y 軸からの傾き角度、「C」は Z 軸からの傾き角度を示す（以上、他の各表においても同様）。

30

【0033】

このコンバイナ光学系の収差図は、図 5 のとおりである。

なお、図 5 に示す収差図は、横収差図である。図 5 において、「Y - F A N」は Y 方向の横収差図、「X - F A N」は X 方向の横収差図である。また、中央の座標（X°，Y°）は、画角である（図 7，図 9，図 11 においても同様）。

【実施例 2】

【0034】

40

以下、本発明の第 2 実施例を示す。

本実施例のコンバイナ光学系の光路図は、図 6 のとおりである。なお、図 6 では、光路に作用しない面については一部省略してある。

このコンバイナ光学系のデータは、表 3、表 4 のとおりである。

【0035】

【表 3】

仕様

入射瞳径:3

計算波長[nm]:647, 521, 476

X方向画角[deg]:6~-6

Y方向画角[deg]:-4.5~4.5

射出瞳基準の虚像形成位置:-600

10

各面のデータ

面番号	曲率半径	屈折率[nd]	分散[ν d]	作用
1:	INFINITY	1		屈折 ←瞳
2:	INFINITY	1.55389	38.09	屈折
3:	INFINITY	1.55389	38.09	反射 ←B S
4:	INFINITY	1.55389	38.09	反射
5:	-117.4695	1.55389	38.09	反射 ←主反射面
6:	INFINITY	1.55389	38.09	反射
7:	INFINITY	1.55389	38.09	反射
8:	INFINITY	1.55389	38.09	反射
9:	INFINITY	1.55389	38.09	反射
10:	-6.13029	1.54250	62.9	屈折
11:	10.70334	1.00000		屈折

20

11面の非球面データ

k:-0.119131, a:-2.10726 $\times 10^{-04}$, b:-1.39171 $\times 10^{-06}$

12: INFINITY 1 ←画像表示面

30

【表 4】

各面の座標値と傾き角度[deg]						
面番号	X	Y	Z	A	B	C
1:	0	0	0	0	0	0
2:	0	0	13	0	0	0
3:	0	0	14.8	30	0	0
4:	0	-3.11769	13	0	0	0
5:	0	-6.23538	14.8	-60	0	0
6:	0	-3.11769	13	0	0	0
7:	0	3.11769	16.6	0	0	0
8:	0	9.35307	13	0	0	0
9:	0	15.58846	16.6	0	0	0
10:	0	19.74538	14.2	-60	0	0
11:	0	24.07551	11.7	-60	0	0
12:	0	31.00085	7.70165	-60	0	0

10

20

なお、11面（非球面）の定義式は、式（1）のとおりである。

【0037】

【数1】

$$Z = \frac{ch^2}{1 + \sqrt{1 - (1+k)c^2h^2}} + ah^2 + bh^6$$

30

但し、cは、曲率（曲率半径rの逆数）、
kは、円錐定数（コニック定数）である。・・・(1)

このコンバイナ光学系の収差図は、図7のとおりである。

【実施例3】

【0038】

以下、本発明の第3実施例を示す。

本実施例のコンバイナ光学系の光路図は、図8のとおりである。なお、図8では、光路
に作用しない面については一部省略してある。 40

このコンバイナ光学系のデータは、表5、表6のとおりである。

【0039】

【表 5】

仕様

入射瞳径:3

計算波長[nm]:528, 521, 514

X方向画角[deg]:6~-6

Y方向画角[deg]:-4.5~4.5

射出瞳基準の虚像形成位置:-600

10

各面のデータ

面番号	曲率半径	屈折率[nd]	分散[ν d]	作用
1:	INFINITY	1		屈折 ←瞳
2:	INFINITY	1.583	29.9	屈折
3:	INFINITY	1.583	29.9	反射 ←B S
4:	INFINITY	1.583	29.9	反射
5:	INFINITY	1.583	29.9	反射 ←主反射面

20

5面のプログラムデータ

第1光源:実点光源, 第2光源:仮想点光源, 回折次数:1

感光層の厚さ[μ m]:20, 感光層基準屈折率:1.493, 屈折率変調度:0.03

感光層の体積膨張率:-0.02, 感光層の体積屈折率変化:0

30

第1光源の座標値: $X=0.00 \times 10^{+00}$, $Y=0.00 \times 10^{+00}$, $Z=-4.34 \times 10^{+01}$ 第2光源の座標値: $X=0.00 \times 10^{+00}$, $Y=0.00 \times 10^{+00}$, $Z=-2.13 \times 10^{+06}$

6:	INFINITY	1.583	29.9	反射
7:	INFINITY	1.583	29.9	反射
8:	INFINITY	1.583	29.9	反射
9:	INFINITY	1.583	29.9	反射
10:	-14.45471	1.9068	21.2	屈折
11:	63.26252	1.00000		屈折
12:	INFINITY			←画像表示面

40

【表 6】

各面座標値と傾き角度[deg]						
面番号	X	Y	Z	A	B	C
1:	0	0	0	0	0	0
2:	0	0	13	0	0	0
3:	0	0	14.8	30	0	0
4:	0	-3.11769	13	0	0	0
5:	0	-6.23538	14.8	-60	0	0
6:	0	-3.11769	13	0	0	0
7:	0	3.11769	16.6	0	0	0
8:	0	9.35307	13	0	0	0
9:	0	15.58846	16.6	0	0	0
10:	0	19.22576	14.5	-60	0	0
11:	0	21.65064	13.1	-60	0	0
12:	0	31.37409	7.48616	-60	0	0

10

20

このコンバイナ光学系の収差図は、図 9 のとおりである。

【実施例 4】

【0041】

以下、本発明の第 4 実施例を示す。

本実施例のコンバイナ光学系の光路図は、図 10 のとおりである。なお、図 10 では、
光路に作用しない面については一部省略してある。

30

このコンバイナ光学系のデータは、表 7、表 8 のとおりである。

【0042】

【表 7】

仕様					
入射瞳径:3					
計算波長[nm]:647, 532, 476					
X方向画角[deg]:10~-10					
Y方向画角[deg]:-6~6					
射出瞳基準の虚像形成位置:-600					
各面のデータ					
面番号	曲率半径	屈折率[nd]	分散[ν d]	作用	
1:	INFINITY	1		屈折	←瞳
2:	INFINITY	1.5067	70.5	屈折	
3:	INFINITY	1.5067	70.5	反射	←B S
4:	INFINITY	1.5067	70.5	反射	
5:	-30	1.5067	70.5	反射	←主反射面
6:	INFINITY	1.5067	70.5	反射	
7:	INFINITY	1.5067	70.5	反射	
8:	-15.66254	1.5067	70.5		←中間像

10

20

30

【 0 0 4 3 】

【表 8】

各面の座標値と傾き角度[deg]						
面番号	X	Y	Z	A	B	C
1:	0	0	0	0	0	0
2:	0	0	13	0	0	0
3:	0	0	14.7	30	0	0
4:	0	-2.94449	13	0	0	0
5:	0	-6.23538	14.9	-60	0	0
6:	0	-2.94449	13	0	0	0
7:	0	3.2909	16.6	0	0	0
8:	0	6.53653	14.72613	-60	0	0

40

このコンバイナ光学系の収差図は、図 1 1 のとおりである。

50

【実施例 5】

【0044】

以下、本発明の第5実施例を示す。

本実施例のコンバイナ光学系の光路図は、図12のとおりである。なお、図12では、光路に作用しない面については一部省略してある。

このコンバイナ光学系のデータは、表9、表10のとおりである。

【0045】

【表9】

仕様

X方向画角[deg]:-6.66~6.66

Y方向画角[deg]:-10.0~0.0

射出瞳基準の虚像形成位置:-1000.000000

各面のデータ

面番号	曲率半径	屈折率[nd]	分散[ν_d]	作用
1:	INFINITY			←瞳
2:	INFINITY	1.595505	39.02	
3:	INFINITY	1.595505	39.02	反射 ←PBS
4:	INFINITY	1.595505	39.02	反射 ←主反射面
5:	INFINITY	1.595505	39.02	反射
6:	INFINITY	1.595505	39.02	反射
7:	INFINITY	1.595505	39.02	反射
8:	INFINITY	1.595505	39.02	
9:	35.57719	1.717362	29.52	
10:	-14.50837	1.681452	50.86	
11:	-41.85377			
12:	INFINITY			←画像表示面

【0046】

10

20

30

40

【表 10】

各面の座標値と傾き角度[deg]				
面番号	X	Y	Z	A
1:	0	0	0	0
2:	0	0	13	0
3:	0	0	14.24500	35.0000
4:	0	-3.47896	14.44718	72.1229
5:	0	0	0	0
6:	0	4.40000	3.60000	0
7:	0	14.40000	0.00000	0
8:	0	18.00000	3.60000	0
9:	0	34.07907	0.10000	-71.1490
10:	0	35.02544	-0.22311	-71.1490
11:	0	39.04382	-1.59507	-71.1490
12:	0	51.10871	-5.71427	-71.1490

10

20

【図面の簡単な説明】

【0047】

【図1】アイグラスディスプレイの外観図である。

【図2】実施形態のコンバイナ光学系1の断面の概略図である。

【図3】実施形態の別のコンバイナ光学系1の断面の概略図である。

30

【図4】第1実施例のコンバイナ光学系の光路図である。

【図5】第1実施例のコンバイナ光学系の収差図（横収差図）である。

【図6】第2実施例のコンバイナ光学系の光路図である。

【図7】第2実施例のコンバイナ光学系の収差図（横収差図）である。

【図8】第3実施例のコンバイナ光学系の光路図である。

【図9】第3実施例のコンバイナ光学系の収差図（横収差図）である。

【図10】第4実施例のコンバイナ光学系の光路図である。

【図11】第4実施例のコンバイナ光学系の収差図（横収差図）である。

【図12】第5実施例のコンバイナ光学系の光路図である。

40

【符号の説明】

【0048】

1 コンバイナ光学系

20a 画像表示面

13 ビームスプリッタ（BS）、偏光ビームスプリッタ（PBS）

14 1/4波長板

15 基板

15a 使用者側の面

15b 外界側の面

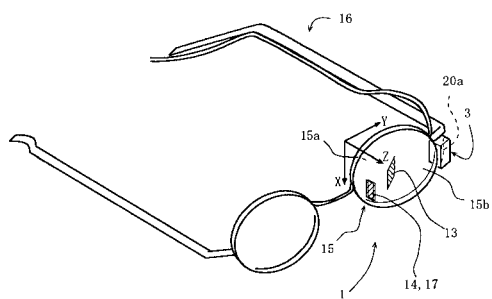
15c 境界面

17 主反射面

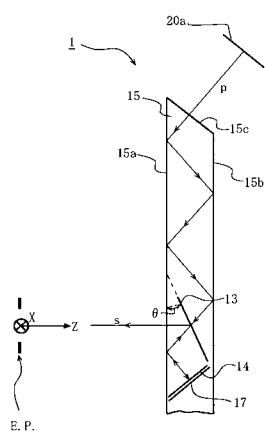
50

E . P . 射出瞳 (アイポイント)

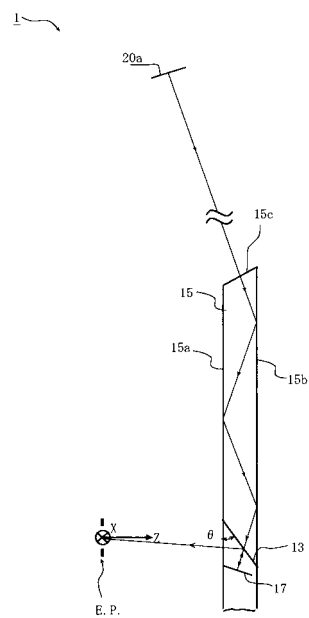
【 図 1 】



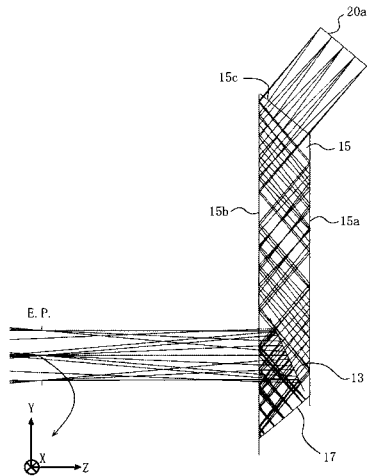
【 図 2 】



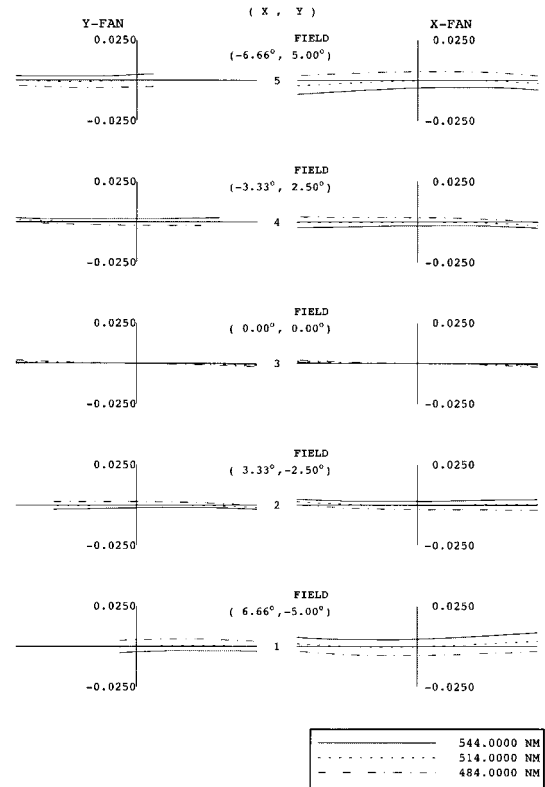
【 図 3 】



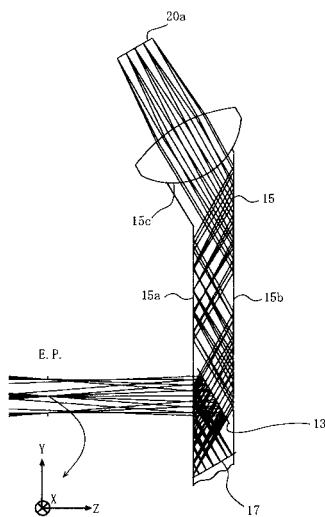
【図 4】



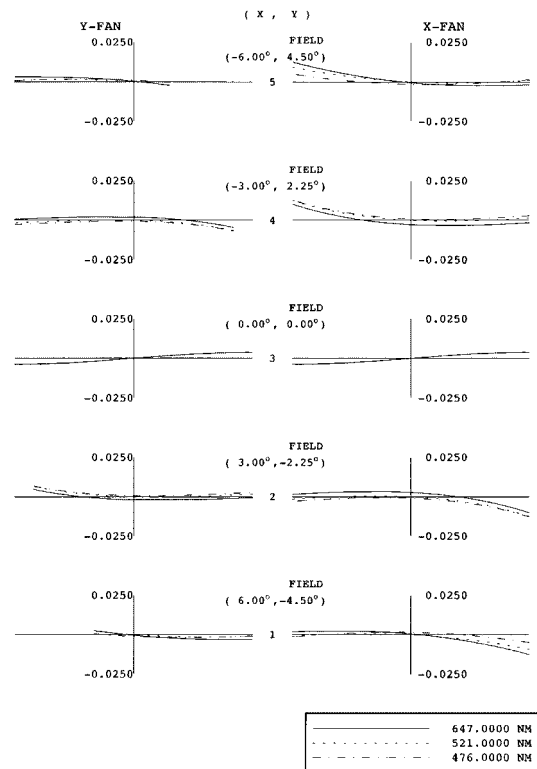
【図 5】



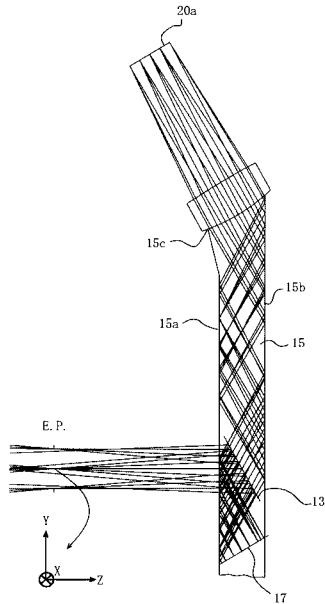
【図 6】



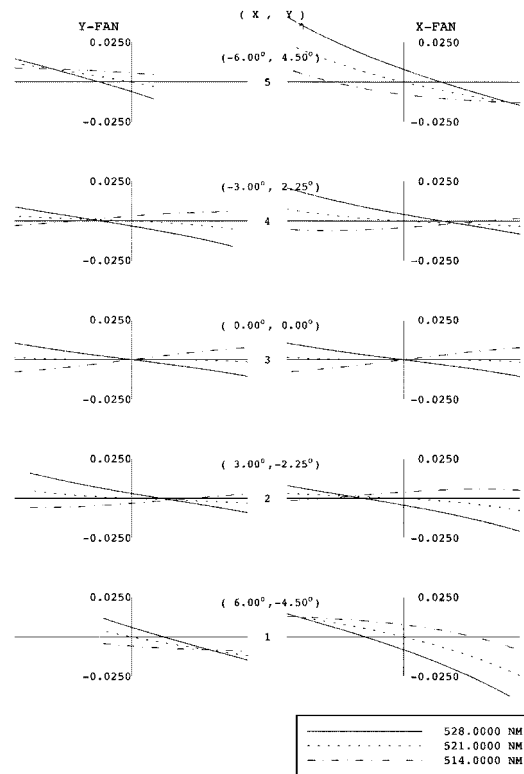
【図 7】



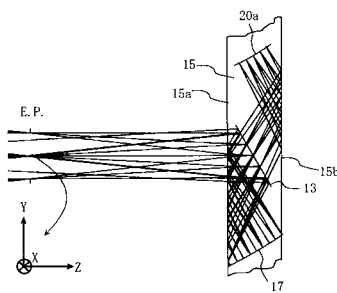
【図 8】



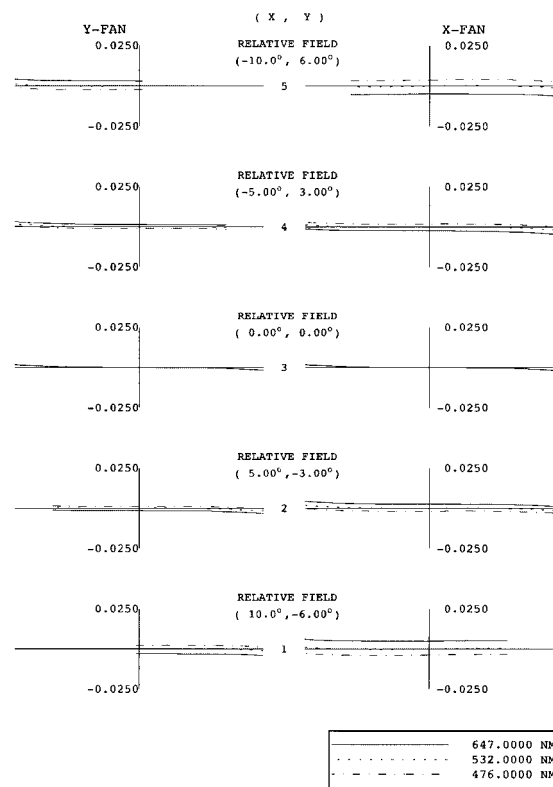
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

